

Title	欧洲戦争と国際貸借殊に英米両国の貸借関係
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.12 (1915. 12) ,p.1337(1)- 1372(36)
JaLC DOI	10.14991/001.19151201-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19151201-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

當會社ニハ株主ナルモノナシ會社ハ保
險契約者ノ共有ニシテ會社ノ利益ハ保
險契約者ニ配當ス

東京市京橋區桶町十八番地



千代田生命保險

相互會社

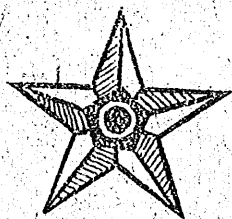
電話京橋 三番三番一三五六番

社長 門野幾之進
專務取締役 北川禮弼
取締役 牛場卓藏
監查役 岩本述太郎
監查役 麻生義一郎

結婚 徵兵 教育

本會社は我保險界に比類なき青少年女専門の
保險會社にて徵兵、結婚資教育費並に營業資
金蓄積の最良機關なり

本社 東京市京橋區桶町十八番地
電話京橋三〇二四番
振替口座東京六五九五番
出張所 大阪市東區高麗橋五丁目九番
電話本局一五六一
出張所 福岡市天神町二番地



日本徵兵保險株式會社

取締役社長 門野幾之進
專務取締役 足立 莊

特色

一、本會社は株式會社の特長と相互會社の美點
とを併有し株主には有力知名の士を網羅す
一、會社は決算の利益金を保險契約者に配當す
るが故に會社の利益は被保險者の利益なり
一、一年志願兵入學には保險金の八割を拂渡尙
徵集猶豫中は利息を附加す

三田學會雜誌 第九卷第十二號

論 說

歐洲戰爭と國際貸借殊に英米兩國の
貸借關係

堀江 歸一

歐洲戰爭は其開始以來既に一年數箇月の久しきに亘り如何なる時に至りて終
熄するや之を豫測する能はず而して此戰爭が交戰諸國並に中立諸國に及ぼし又
將來に及ぼさんとする影響は頗る多端に涉り其一斑を叙述するに就ても幾多の

困難に接するを免かれず、本文に於ては歐洲戰爭が國際間殊に英米兩國の貸借關係に及ぼしつゝある影響を論じ、戦後に於て國際間の金融若しくは財力の消長に如何なる變動を生ぜんとするやを判斷するの資料に充てんとす。

國際貸借を組成する項目は一國經濟上の狀態に依り、常に異動するを常とし、二國を取つて比較せんか、其内容若しくは其項目の全體の貸借に對する關係は固より一なるを得ず、輸出入貿易は國際貸借の項目として、各國に存在するものなりと雖も、一國の外國に有する債權の輸出貿易に止まらざるが如く、一國の外國に負う債務も亦輸入貿易のみに限らるゝに非ず、貿易關係以外に於て、幾多貸借の項目あり、種々の債權債務の存するは、今日の如く國際間の交通自由なる時代に於て、當然の數とせざる可からず、外國に對して資金を放下し、又は外國の有價證券を買入れたる國は利子收益を取得して、債權國たる可く、其反對の地位に居る國は利子收益支拂の爲めに、外國に債務を負はざる可からず、更に自國の海運業を以て外國の貿易品を輸送し、自國の保險業を以て外國船舶貿易品等を保險し、自國の港灣を改修し、又は貿易中繼の地位に居り、外國の爲めに金融上其他の取引を行ひ、外國船舶外國人の自國に寄航來遊することを盛にし、又自國民を外國に移住せしめ、外國に生業を求めしむる國は運賃、保險料、手数料、消費金、送還金等の形態に於て、外國に債權を有すると共に、反對の地位に居る國は外國に債務を負はざるを得ず、斯の如く國際間に於ける一國の貸借には種々の項目を存し、一項目に於ける債權は必ずしも同一項目に於ける債務と相一致するを期する能はずと雖も、全體の貸借は必ず相一致す可きことを以て一の原則とす。換言すれば貿易關係以外に於て一國の外國に有する債權は無形の輸出とも稱せらる可きものにして、有形の輸出即ち商品の輸出と無形の輸出とを合せたる金額は其國の輸入貿易額に相當し、反對の地位に居る國は其外國に負う債務と輸入貿易額とに相當する商品を輸出して以て輸入貿易の不均衡なる間に於て、國際貸借の均衡を維持するの道理なり。ウヰザース氏は其著外國爲替論に於て、有價證券の輸出入又は利札の輸出入なる新熟語を用ひて、國際貸借の均衡を説明せんとしたりと雖も、舊來の理論を説明するに新熟語を以てしたるに止まり、理論其ものに何等改新の加へられたるに非ざるなり。

茲に於てか世界列國を通覽するに、或は債權國たるものあり、或は債務國たるもの

のあり而して其債權國たるものは、債權を商品に依て支拂はるゝが故に、輸入超過國たり、其債務國たるものは、商品を以て債務を支拂ふが故に、輸出超過國たる可し。然も債權國が外國に債權を取得する爲めに、資金を放下し、其放下しつゝある資金が現に回収しつゝある債權に超過せんか、商品の形態に於て資金を供給するが故に、債權國にして一時輸出超過國たることある可く、此反對に商品の形態に於て、資金を放下せらるゝ時は債務國にして一時輸入超過國たることある可し。日露戦争後最近歐洲戦争破裂に至る時まで、我國が輸入超過國たりしが如き、實に後者の適例を以て見る可きものなり、然も債務國が外國より資金の供給を受くるの時期を経過し、或は供給せらるゝ資金よりも、多額の資金を既往の債務決済の爲めに、外國に支拂ふに至らんか、必ず輸出超過國たる可く、又債權國にして新に外國に供給する資金よりも多額の資金を既往に放下したる資金の利子収益として收受することゝ爲れば必ず輸入超過國たらざるを得ざるなり。

一國が國內に充實したる資金の一部分を外國に供給し、以て外國に於ける生産事業を盛ならしむるの政策は資本輸出國並に資本輸入國の兩者に利益を與ふる

ものあること一般の承認する所なりき。蓋し資本輸入國は概して新開國の常として内國に富源の饒多なるものを存しながら、資本不足の結果、金利歩合高くして、此富源を開發する能はざるの狀態に居るものなるが故に、資本の供給豊富なる國より其供給を仰ぐことの有利なるは論を俟たず。唯資本の供給に相關聯して、政治的意義の附會せらるゝことを避け、又内外經濟上の變動に依て、急劇なる資金の回收に接したる場合に、爲めに蒙らんとする影響に對して、内國經濟社會の安全を保證するの用意を要するのみ。又之を資本輸出國の方面より見るに、一國が内國に資金の供給充實し、外國に之を輸出するの域に達したるの時には、其國は商工業を以て立國の基礎としつゝあるの狀態なるを以て、内國に産出する農産物を以てしては、自國民を給養する食料品、自國産業の必要とする原料品を供給するに足らず、必ず其大部分を舉げて外國殊に新開國の産出に依頼せざる可からざるが故に、資本輸出國自ら國內に豊富なる資金を新開國に供給して、後者の生産事業を盛にし、其運輸交通機關を普及せしむるときは、(第一)自國に供給せらるゝ原料品食料品を廉價豊富ならしめ、(第二)自國の資本家をして資金を金利歩合の高き新開國に運用せし

むるの結果、資本の運用に伴う利益を大ならしめ、第三、自國の金利歩合過度に低落して、爲めに投機熱を惹起し、恐慌を誘致するの弊なきに至らしめ、第四、自國內に於て多數の國民をして良好なる狀況の下に生活せしむるの利益あるを得べし。唯資本輸出國が資本の輸出に依て、外國に債權を收め、輸入超過の狀況を馴致しつゝある間に於て、資本輸出の勢の中絶する一方に、輸入の超過依然たるものあらんか、曩に外國に放下したる資本其ものを以て、國際貸借上の債務を決済せざる可からざるの地位に陥り、恰も資本に依頼して、衣食するの境遇に沈まざるを得ず。又外國に債權を得るに當つても、自國民自ら外國に於て直接に事業經營の衝に當らず、外國の經營に係る會社の株式有價證券を所有するの狀態と爲らんか、資本家は單に資本を貸付けて、利子を受取り、徒手遊食の民と爲りて、企業精神を消失するの弊を免かれず、資本輸出國たるは、可なりと雖も、同時に對外企業國たる可く、決して金貨國たる可からざるの理由は此點に存するものにして、若しも一國が金貨國を以て安んぜんか、對外債權は獲得するも、之に伴う弊害の避け難きものあることを認めざる可からず。

然れども從來資本輸出國に於て、資本の輸出に依て生ずる弊害を以て目せられたるものは、多く枝葉の點にして、資本輸出に伴う利益に比較すれば、寧ろ事の小さなものとせられたり。唯近年に至り從來の議論と比較して、稍や根抵ある議論に基ひて、資本の輸出を非なりとする意見を懷く者あるは、注目を値する所たるを失はず。今其反對論の要點とする所を窺うに、一國が外國に資本を輸出し、而して其資本が外國に於て富源開發の用に供せられ、資本輸出國に對して、原料品食料品の供給を豊富ならしむるを得ると云ふは、一箇の確定したる事實に非ず。新開國は必ずしも永く農業國たるの地位に居ることを欲せず、進んで内國に工業を起し、産業の種類を豊富ならしめんとするは、合衆國、加奈陀、濠洲等の實例に、據て之を知るを得べく、自然の徑路に依頼して、工業の振興を求むる能はざるや、保護關稅に依て其目的を達するに勉むることも、諸國に於ける實例の證明する所なり。斯る徵候の歴然たる場合に、資本輸出國にして新開國に對する資本の供給を自由にすること舊來の如く爲らんか、資本輸入國は爲めに工業の勃興を致し、資本輸出國の産物を需要せず、第三國の市場に於ても亦資本輸出國の産物に對して競争を試み、資本輸出國は

結局糧を敵に送るの愚を演ずるに至る可しと云ふ。英國が一時輸出貿易の増進意の如く爲らず、一方に却て輸入超過の大を致すや、之を以て英國の資本輸出が自國輸出貿易に禍を及ぼすものなりとし、チエンバーレン氏一派の關稅改革論者は頻に資本輸出の不可なることを絶叫したることありき。此議論は彼の關稅改革論に於て、英國が機械原料品の類を外國に輸出するは英國の爲めに謀りて、自殺的政策なりとするものと同巧異曲の趣ありとす可きか。然も關稅改革論の消滅して以來上記の反對論亦自ら其跡を絶ち、英國は外國に資本を輸出して、自國經濟社會の繁榮に資せしめんとし、國家亦此點に就て何等の干涉を加へずして、以て今回の戦争に至れるは、世人の知る所の如し。

二

英國は世界文明國の間に於て最も大なる對外債權を有するものとして、著聞すると共に、其輸入超過の大なることに就ても、亦他に匹を存せず。英國貿易の趨勢を既往に遡つて檢するに、千八百二十四年まで常に若干の輸出超過を呈したるが、千八百二十五年以來、狀況一變し、同年より千八百三十年まで輸入超過は六百萬乃至

八百萬磅に、千八百三十年代の終に於て、一千萬磅臺に上り、千八百七十六年を以て實に一億磅以上に達したり、當時尙ほ輸入超過を不利なる貿易差額とし、輸出超過を有利なる貿易差額なりとする「マーカンチリズム」に基く舊思想の傳唱せらるゝものあり、斯く連年繼續する輸入超過に對して、世人をして聊か不安の念を懷くことを禁ずる能はざらしめたるが如しと強も、然も商品の輸入超過と共に、金銀の輸入亦輸出に超過し、爲替相場は常に英國に有利なりしは明白の事實にして、是等の事實は英國が貿易關係以外に於て、外國に對して既に債權を有し、國際貸借上に於て一箇の債權國たるに至ることを證明したるものなり。唯當時英國が外國に對して若干の債權を有し、斯く連年繼續する輸入超過を決濟し、進んで外國より金銀の輸入超過を得たるやの問題に對しては正確なる解答を得る能はざりき。然も其以後に於ては事情自ら異なり、ウキリヤム、ニューマーチ、ステフェン、ブルン氏等に次いで、サー・ロバート・ギッフエンは英國の外國に有する債權の各項目に就て詳細なる調査を數次に亘りて發表し、商務院の調査に係る「貿易青書」亦之を訂正し、近年に於てはサー・デュー・ジョーシ・ペイシユの調査最も信憑す可きものとして、一般に認めら

るゝが如し。

サーロバートギッフエンが千八百七十八年一月英國王立統計協會に於て發表したる論文(同氏編財政論集第一編第七章に收録せらる)に據れば氏は當時英國の對外放資を以て總計十三億二百萬磅とし(セイド氏は千八百七十二年に於ける英國の對外放資を十一億磅と計算し、ナッシュ氏は千八百八十一年の放資を十二億五千萬磅と計算したり。時代の前後を念頭に置きて考ふれば、ギッフエン氏の計算と略ぼ相一致するを認む可し)而して此放資より回収する利子收益を二千八百九十三萬三千萬磅に上るものとし、一方に千八百八十二年三月同協會に於て發表したる論文(同上書第二編第六章に收録せらる)に於ては、千八百七十八年より同八十年に至る三年間の平均に據り、放資に屬する利子收益以外の對外債權諸項目に就て研究し海運業の運賃に屬するものを五千八百萬磅、手数料保險料に屬するものを一千七百萬磅と計算したり。即ちギッフエン氏の調査に據れば、千八百七十年代の終に於て、英國が對外放資の利子收益、運賃手数料、保險料等の諸項目を合せて、外國に有する債權は一億三百九十三萬三千萬磅に上れるものにして、同時期に於ける

平均輸入超過額一億一千九百萬磅と大體に於て相一致せりとするを得べし。當時英國に於ては輸入超過額の一億磅以上に上れるの事實に接して、其金融市場に及ぼす影響若しくは國民經濟の前途に就て、悲觀的言論の生ずるを免かれざりき。ギッフエン氏が如上の數字を明にし、又其計算の根基を示し、進んで如何なる程度まで英國は外國の有價證券を賣却し、又對外放資を回収しつゝありや、又其賣却回收の金融市場に及ぼす影響如何。此點に就て國民が永久に實質的程度に於て、對外放資を回収しつゝありと云ふ結論に到達するに先だちて、大なる注意を施さざる可からず。蓋し英國には大なる國際的資本ありて、自由に移動するを得べく、隨て最近兩三年間に於ける如く、英國農産物の收穫高平均以下にして、急劇に食料品輸入の増加したる場合には、英國に對する外國の債權増加す可しと雖も、尙ほ國際的資金の一部分が英國より他國に移ることに依て、當面の事情に應ずるを得べし。一時に二三百萬磅の有價證券の賣却せらるゝは、爲替取引に於て重大事件なりと雖も、英國が資本を喪失するの點に於ては、大なる關係を有せず、且つ此種の異動も敢て永久的ならず次年度に於ける良好なる收穫は英國に對する外國の債權を減じ、英國

をして再び國際的資金を吸引するに至らしむ可し。斯る資金の移動ありて、偶々英國が資金の一部を失へるの故を以て、英國が資本に依て生活するものなりと云ふは當らざるの言なり」と説述したるは、最も時機を得たりとす可し。

次いで輸出入貿易の差額に關聯して、英國の國際貸借に就て、世人の間に疑惑を惹起したるは、即ち南阿戦争當時なりとす。蓋し英國の輸入超過は比年増加し、千八百七十年並に同八十年代に於て、既に一億磅を超過するに至れりと雖も、千八百九十年代の前半に至り、漸く増加して一億數千萬磅と爲り、千九百年代の初期に於て早く二億磅に近づくんとするの狀勢と爲れり。其一斑を示せば左の如し。(單位百萬磅)

輸 入		輸 出		輸入超過	
自一八八〇年	五箇年間平均	四一八、五	二九五、九	一二二、六	
自一八八五年	五箇年間平均	四五三、〇	二九八、一	一五四、九	
自一八九〇年	五箇年間平均	五三三、八	三五〇、一	一八三、七	

南阿戦争は意外の日子を費して、尙ほ英國に決定的勝利を占むるに至らしめず、

此間英國は巨額の軍事費を費消したる結果、其經濟組織を攪亂したるもの少なからず。輸入超過の劇増に接するや、世人は再び往年の悲觀論を繰返し、英國を以て資本に依て衣食するものとなし、斯る狀態を以て推移せんか、英國は多年自國繁榮の基礎としたる對外債權を喪失するに至る可しとし、チエンバーレン氏一派の關稅改革論の如き此時を以て早く擡頭するの兆を呈したり。然もサー・ロバート・キップエンは往年に於て然りしが如く、此時に於ても英國々際貸借の實狀を示して、以て世人を安んせしめんとしたり。即ち氏の調査に據るに、千九百三年英國が對外放資に依て得る利子収益は九千萬磅、海運業の運賃は八千萬磅、手数料其他の收入は二千萬磅にして、合計一億九千萬磅に上り、優に貿易上の債務を決済するを得る計算なり。(調査の詳細は Economic Inquiries and Studies, vol. II, ch. XXXI, The Present Economic Conditions and Outlook に收めらる)而して其後英國の貿易は戰時戰後に於ける變態を脱し、千九百五年より同九年に至る五箇年間平均に就て見るに、輸入六億七百二十萬磅に對する輸出四億五千四百三十萬磅にして、輸入超過亦一億五千二百九十萬磅に下り、千九百十年より同十三年に至る四年間の平均に於ては、輸入七億千七

百九十萬磅に對する輸出五億七千五百八十萬磅にして、輸入超過は更に一億四千二百十萬磅に減少したり。

然らばチエンバーレン氏一派の關稅改革論者が英國は外國に放下したる資本を蠶食して生活しつゝあるものなり、此狀態を脱せんとするには、關稅制度を改革して所謂自由輸入の政策の過度に行はるゝを抑制し、貿易の逆勢を矯正せざる可からざることを痛論したる所說の一般に承認せらるゝを得ざりしや怪むに足らざるなり。唯資本蠶食論は關稅改革論者の最も熱心に唱道する所に係れるが故に、政府亦之に對する駁論を試み、千九百三年商務院の編纂刊行したる、内外國商業並に産業上の狀況に於ては特に「英國輸入超過に關する覺書」と題する一章を設け、運賃の收入を八千九百三十二萬四千磅とし、一方に對外放資の利子收益を、其最小額に見積りて、尙ほ六千二百五十萬磅を下らざる可しとし、又英國の資本の若干額が毎年外國に放下せらるゝ以上は、輸入超過額が右二種の金額を合計したる高を超過するを以て、當然の事實とすることを斷言したり。

三

英國は國內の資本家が自ら外國に資金を送付することに依り、又外國の公私法人が公債社債株式の類を英國市場に發行し、資本家の之を引受くることに依り、年々對外債權を増殖するの地位に居るや論を俟たず、但し外國に對する英國の放資が内外經濟上の事情に依て、時に増減の變動あるは、已むを得ざるの數にして、試に千八百九十二年以來最近に至る對外放資の各種項目を類別すれば、左の如し。

年次	外國政府に對する貸出	殖民地政府に對する貸出	外國並に殖民地に對する貸出	外國並に殖民地鐵道	會社	合計
一八九二	二二、一	七、七	二、五	一四、七	一、九	四九、九
一八九三	三、〇	一二、四	三、一	九、三	一一、二	二九、〇
一八九四	二二、七	一三、一	二、〇	九、四	五、〇	五二、二
一八九五	一九、六	九、一	一、二	一〇、四	一四、八	五五、一
一八九六	二一、〇	四、八	四、九	一〇、一	一五、三	五六、一
一八九七	一〇、六	一三、七	〇、四	九、八	一二、九	四七、四
一八九八	二四、一	一一、〇	二、五	一五、一	七、一	五九、八
一八九九	九、九	七、四	〇、五	一八、八	一一、六	四八、二
一九〇〇	二、〇	七、〇	一、八	六、二	七、二	二四、二
一九〇一	〇、九	一六、二	二、九	八、一	四、五	三二、六
一九〇二	一三、九	一九、四	一、八	一二、四	一〇、二	五七、七

一九〇三	八、六	三三、三	三、〇	六、七	二、七	五四、三
一九〇四	二九、九	一七、七	三、七	一〇、六	三、二	六五、一
一九〇五	三五、三	一五、三	七、七	三九、三	九、四	一〇七、〇
一九〇六	二三、一	六、三	一、八	二二、五	七、二	六〇、九
一九〇七	二〇、九	一五、四	一、七	二八、〇	二、八	六八、八
一九〇八	二四、五	一九、四	一〇、五	六二、四	五、一	一一一、九
一九〇九	二二、〇	二九、一	一七、一	四二、〇	八、一	一一八、三
一九一〇	一八、四	三五、六	一一、四	六〇、〇	七、三	一三二、七
一九一一	二四、二	一〇、七	六、九	六五、九	八、五	一一六、二
一九一二	九、五	一四、六	一九、七	五六、八	四、六	一〇五、二
一九一三	二六、一	二六、二	一五、七	四三、〇	三、三	一一四、三

上表數字の單位は百萬磅なり。千八百九十二年より千九百二十二年に至る分は商務院編纂報告書に掲げられたるものに據り其以後の分は「エコノミスト」の記事に基き編成したり。

即ち英國が南阿戰爭に従ひたる三年間並に戰後一二年間は對外放資の減少を免かれざりしと雖も、其後徐々恢復し、殊に千九百八年以後に於ては、毎年の新放資は常に一億磅の多きに上れり。毎年斯る巨額の放資の行はるゝ以上は、年を重ねるに隨ひ、英國々際貸借の狀況が以前に比較して、趣を改む可きは勿論にして、自ら此

點に就て新なる調査なかる可からず、而して此種の調査として信憑す可きものを舉ぐれば、先づ指をサー・ザヨージ・ペイシユ並にシー・ケイ・ホブソン二氏の調査に屈せざる能はず。ペイシユ氏は千九百九年六月、外國に於ける英國の資本放下に關する論文を王立統計協會の例會に於て發表し、其全文は同會々報九月號に收録せられたり。氏の調査は其命題の示す如く、英國の對外放資に限られて、對外債權の全體に及ばずと雖も、ギッフエン氏の調査以後英國の對外放資が如何なる趨勢の下に發達したるやを知るに足るものあり。氏は、內國稅委員會が所得稅賦課の目的を以て同稅納付者が殖民地並に外國より收受する所得に就て、年々調査發表する報告を自家調査の根據とし、千九百六年より同七年に至る一會計年度に於ける此種の所得を分ちて、對手國政府の支拂ふものと、政府關係外の企業者の支拂うものと二種に區別し、其内容を左の如く類別計算したり。

(一) 印度政府支拂	八、七六八、二三七磅
(二) 諸殖民地政府支拂	一三、九三二、七二二
(三) 諸外國政府支拂	八、三三八、一二四
合 計	三一、〇三九、〇八三

(一) 外國殖民地會社法人の配當金利子支拂高	一五、五六八、八一三
(二) 銀行並に利札取扱人が外國並に殖民地の利札取扱に依て得る高	一三、七六七、三一五
(三) 個人商會、會社等が代理人、銀行、利札取扱人を経て對外放資に依て得る高	六、九四七、四八二
(四) 英國所在會社の所有經營する在外國鐵道の利益	一二、二三七、四二三
合 計	四八、五二一、〇三三
總 計	七九、五六〇、一一六

然も英國人が外國に資本を放下し、本國に利子収益を回收するを得るもの獨り鐵道事業のみに止まらず、鑛山業に、電氣事業に其他諸種の事業に放資の存するものあり。ペイシユ氏は是等の収益を計算し、上記の収益と合算して、總額約一億四千萬磅に上るものとしたり。

然らば斯る巨額の利子収益を生ずる資本金額は幾何に上るものと認む可きか。此點に就てペイシユ氏は第一貸付金を除き他の資本は放下後多年を経過せざれば完全に利益を生ずるに至らざること、第二英國が外國に送致したる資本を以て盡く外國に放下せられたる資本と認む能はず、前者中外國に於て生産上の用を爲さざるものあることの二點に注意を要す可しとし、各種放資の高を合算して、二十

六億九千三百七十三萬八千磅に上るものとし、前記の利子収益と相對して、各種放資の利廻の平均五分二厘に當ることを斷定したり。其後千九百九年十二月ペイシユ氏が紐育フキナンス・フォーラムに於て發表したる論文に於ては、英國の對外放資を以て、約三十億磅と計算したり、曩に放資額を二十六億磅と概算したるは千九百六年より同七年に至る事實を基礎としたるものなるが故に、其後二年間の新放資額を加へ、又前年の概算を訂正して、新に三十億磅の數字を得たるものとす可きか。現に上記統計協會に於けるペイシユ氏の論文發表後出席會員の間に行はれたる討議に於ても、其多數はペイシユ氏の推算したる放資額約二十七億磅説を以て、過小に失するものとし、ヘンリー・ビュモン・ト氏は三十五億磅とするを正當なりとし、フラックス氏亦三十億磅を以て實際に近き數字なる可しとし、ペイシユ氏は最後に是等の批評に對して、多年間此調査を爲すに當り、外國に於て經營せらるゝ會社の報告を蒐集し、之に依て拂込資本金並に純益率を確め、疑惑の存するものは過小に計算し、確實ならざるものは計算より除外したるの事情を陳述したり。(Journal of Royal Statistical Society. vol. LXXII. pp. 465-495. The Statist. vol. LXV. Jan. 1. 1910. The

Advantage of the Export of Capital by the Older Countries. (參照)

英國の官民が自國の對外放資を以て、概算三十五億磅とするの信念を懷くに至れるは、要するに當時の調査並に其以後に於ける年々の新放資額を累計せるの結果にして、ギッフェン氏調査當時に於ける放資額に對して長足の進歩を爲したるは、一方に彼等の満足を買ふと共に、資本を蠶食して、生活するの杞憂を一掃するに與て力あるの觀あり。

ホブソン氏は千九百十四年一月出版したる著書「資本の輸出に於て、英國の對外債權に就て、綿密なる調査を試み、結局千九百十二年に於て英國の收めたる運賃收入一億五千六百萬磅、手数料保險料等の收入二千九百九十萬磅、對外放資に對する利子收益一億四千萬磅、合計三億二千五百九十萬磅」としたり。但し千九百十二年に於て運賃の收入は特殊の事情即ち前年中に於ける海運關係勞働者の同盟罷業を行ひたる結果、前年度に收納せらる可かりし運賃の收入が次年度に繰延られたるが爲めにして、平生の狀態に於て、運賃の收入は九千萬磅を上下するの常なることを附言したるを以て、氏の調査に基くときは英國對外債權の收入は二億五千九百

萬磅内外と計算するを以て至當とす可きが如し。

英國對外債權の收入が如上の高に在るものとすれば、英國が年々一億數千萬磅の輸入超過に接して、之を決済する上に、年々一億二三千萬磅の新放資を外國に爲し、尙ほ若干の金銀輸入超過を收むるは、當然の數にして、斯くの如くして、英國の國際貸借は略ぼ均衡し、而して對外債權あるの故を以て、英國經濟社會の繁榮を期するを得るものとす可し。千九百十年以後同十三年に至る貸借均衡に關する諸項目を示せば、即ち左の如し。

	輸 入	輸 出	輸入超過	新放資額	金銀入超過	以上三口合計
一九一〇年	六七八、三	五二五、四	一四二、九	一三二、七	六、七	二八二、三
一九一一	六八〇、一	五五一、二	一二八、九	一一六、二	六、〇	二五一、一
一九一二	七四四、六	五九一、九	一五二、七	一〇五、二	三、六	二六一、五
一九一三	七六八、七	六三四、八	一三三、九	一一四、三	一一、九	二六〇、一

歐洲開戰前、まで斯る狀態に居りたる英國の國際貸借は開戰後如何なる影響を蒙り、以て今日に至れるや、開戰以後英國の貿易が重大なる變動を呈し、殊に著しく輸出を減退せしめて爲めに輸入超過の劇増を致したるは、著明の事實にして、其一

斑を示せば左の如し。

		金銀地金			
		一九一四年 上半季	一九一四年 下半季	一九一三年 上半季	一九一三年 下半季
輸入		三九五、八	三二一、六	三七八、七	三九〇、〇
輸出		三一四、七	二二一、〇	三一六、一	三一八、七
輸入超過		六一、一	一一〇、六	六二、六	七二、三
一年合計		一七一、七		一三三、九	
		金銀地金			
		一九一五年一月以降七月	前年同時期	一九一五年一月以降七月	前年同時期
輸入		五〇四、四	四三五、二	一二、四	四二、四
輸出		二七九、〇	三七五、九	一〇、七	三三、四
輸入超過		二二五、四	一五九、三	一、七	九、〇

更に千九百十四年中に於ける英國對外放資の状況を見るに、外國政府に對する貸出千八百三十三萬磅、殖民地政府に對する貸出三千八百六十七萬磅、外國並に殖民地法人に對する貸出千八百三十六萬磅、外國並に殖民地鐵道に對する放資三千七百五十八萬磅、鑛山業に對する放資二百六十七萬磅合計一億一千五百六十一萬磅に上れりと雖も、本年上半季に於ては此種放資額に非常の減少を來し、外國政府

に對する貸出千四百四十五萬磅、殖民地政府に對する貸出千五百四十萬磅、外國並に殖民地法人に對する貸出三十五萬磅、外國並に殖民地鐵道に對する放資六百九十萬磅、鑛山業に對する放資一萬九千磅合計三千七百一十一萬九千磅に下れり。思ふに下半季に於ける對外放資の寡少なるは知る可きのみ、今千九百十四年一月より本年七月に至る一年七箇月間に於ける國際貸借の諸項目を對照すれば左の如し。

		輸入	輸出	輸入超過	新放資額	金銀入超過	以上三口合計
一九一四年		六九七、四	五二五、七	一七二、七	一一五、六	二二、二	三〇九、五
一九一五年 (自一月至七月)		五〇四、四	二七九、〇	二二五、四	三七、一	一、七	二六四、二

歐洲開戦前に於ては、英國は二億五千九百萬磅の對外債權收入を收め、其一部を以て輸入超過を決済し、其餘れるものを對外新放資に供すると共に、若干の金銀地金を輸入するの用に充て、斯くて國際貸借の均衡を得たること曩に示したる所の如し。開戦後英國對外債權の收入に幾何の減少を呈せるやは之を知る能はずと雖も、海運通路の閉塞、船舶の不足、貿易數量の減少等は相重なりて、其運賃收入を生じ、海外諸國に於ける戦争の打撃、對外放資國を敵國としたるの事實は對外放資に對

する利子収益の回收を不可能ならしめたるの道理なるを以て、對外債權の收入が大に減少す可きは論を俟たず、然るに輸入超過は輸出減少、輸入増加の結果、本年度に於て異常の金額に上らんとす。然らば英國が事實新放資を停止し、又金銀輸入超過に減少を來すも、到底戰後に於て國際貸借の均衡を維持する能はざるは明白の數にして、假にホブソン氏が本年六月號「エコノミックス」に発表した論文に於て説明したる所に従ひ、英國對外債權收入の戰爭の爲めに減少したる比率を二割五分とし、戰時一億九千四十二萬磅に上るものとするも、本年一月以後七箇月間の輸入超過が二億二千五百四十萬磅に上る以上は、新放資を廢止し、金銀地金の入超の消失したる曉に於て、尙ほ國際貸借の均衡を維持するに難きの計算と爲る可し。況や新放資の廢棄は英國將來の國運に打撃を加へ、金銀地金入超の消失は兌換制度の維持を困難ならしむるの恐あるに於てをや、而して英國が戰時對外放資を廢棄したるは、實に其自然的生産的方面のものにして、一方に此方面の放資を廢棄すると共に、他の一方に政治的不生産的方面の對外放資を行ひつゝあることを閑却す可からず。即ち英國が聯合國並に自國の殖民地に對して行ひたる貸付は

之に當るものにして、ロイド・ジョージ氏は曩に此種の金額を以て、二億磅に上るものとしたるが今日に於ては此程度に止まらざる可し。思ふに此金額の大半は英國に留置せられ、對手國の英國に對する支拂に充當せられたるものなる可しと雖も、尙ほ其一部分にして對手國に送付せられたるものある可く、然らば自ら目前に於て英國の對外支拂を加重し、國際貸借の逆勢を甚だしめざるを得ず。然も是等の議論たる、何れも英國の貿易表に公表せられたる輸出入の金額其ものを輸入超過と認めて、立論したるものなり。而して實際には輸入貿易として英國の決濟を要するは、斯る貿易表上の入超額のみに止まらず、同表に上らざるもの少なからず、現に貿易表には、輸入の際既に政府の財産に屬せるものは表中に加へざることを附記せり。隨て此種の金額を輸入超過額に算入せんか、戰爭に依て英國の國際貸借の攪亂せられたる程度が世人の一般に理解するよりも、更に大なるものあるは、爭ふ可からざる事實にして、唯其程度を正確なる金額に依て、計量するを困難とするのみ。若しも英國が既往に蓄積したる資本を蠶食して生活する時代到來したりとすれば、其は曩に一部杞憂論者の唱へたるの時に非ずして、正に今日を以て、其然る

ものあることを斷定せざるを得ず。米佛兩國の造幣公價は一弗對五法十八參なるに、佛蘭西の爲替相場が六法と爲りて、一割五分以上の割引に當れるが如き、四弗八十六仙六五を以て造幣公價とする英米の爲替相場が四弗四十九仙の低きに至れるが如き即ち英佛兩國の米國に對する債務支拂過重と爲り、金貨を以て決濟せざる可からざるの急に至れるを示すものにして、過般來兩國の代表者が爲替相場恢復策を講ずるの目的を以て、紐育に出張し、結局英國が佛蘭西と聯合して、紐育に五億弗の外債を發行したるが如き、即ち資本を蠶食して生活する状態の一端を暴露したるものとす可きなり。本年八月發行紐育「ナショナル・シチー」銀行の月報に於ては、昨年開戦當時に於ける英國の對外放資を四十億磅と計算し、本年六月までに外國に賣戻したる放資額を以て、一億磅を上らずとしたり。如何なる基礎に據て計算したるや、之を示さざるを以て、其確否を斷ずる能はずと雖も、他に之と同一の計算を公にしたる者あるの事實に徴するときは、此數字に對して相當の信用を與ふるを得るが如し。The Economist. July. 17th 1915. The Indebtedness of the United States to Europe (參照)

英國が貿易の逆勢、之に伴う對外債務の加重に、就て憂慮する最大原因は是等の事情の爲めに其多年占め來れる自由金市場たる傳習的地位を喪失し、國際的金融中心點たる權勢を他國に奪取せらるゝことを恐るゝの一事に存するものとす可し。蓋し英國全體の金融組織若しくは世界金融市場に於ける倫敦の地位は實に其自由金市場たるが故に、維持せらるゝものにして一度此特色を失はんか、爲めに全體の金融組織に變動を生ずるのみならず、之を復舊するに困難なるものなき能はず。英米爲替相場が或る點以下に低落せんか、國際金融の當業者は必ず倫敦より紐育に向つて、若干の金貨の繼續して流出することを豫期す可く、而して此豫期せる金貨の流出が實現せられざらんか、之を以て英國が金貨の流出に對して恐怖心を懷きつゝあるの證據と認め、英國の信用に疑惑を懷く可く、爲替相場の低落は繼續して、何等之を沮止するものなく、加ふるに如上疑惑の行はるゝ事實は英國の米國に於ける募債を困難ならしめざれば已まざる可し。茲に於てか英國が英米爲替相場の恢復を謀り、又兌換制度の維持を安全ならしむる爲めに、米國に於ける募債以外に、一層大膽なる計畫を講じ、以て此危局に當る可しと云ふ所説の生ずるは、當

然の數にして、現に本年九月發行「ラウンド、テーブル」に掲げられたる「英國財政上の職分」と題する論文に於ては、其一端の示されたるものあり。同誌掲載の論文は總て筆者の姓名を明にせず、隨て何人の意見なるや、之を知る能はず。即ち論者の意見は英國自ら金貨の輸出を自由にし、一方に聯合諸國の有する金貨準備を同一體のものとし、依て以て爲替相場恢復の目的を達せんとするものにして、其要旨を抄出すれば、左の如し。

金融の狀況之を保證する以上は、一國は金貨をして其出でんとする所に任さしめざる可からず。固より英國は之が爲めに多額の金貨を喪失するに至る可しと雖も、反對の政策を施すことに依て、信用の攪亂を惹起すに比較すれば之に堪ゆるを得べし。保險の困難、運送の危険は短期間に多額の金貨を輸送するの妨害たる可しと雖も、一方に金貨輸出の道を杜塞して、英國の信用を傷け、他の一面に於て英國の金貨資源を流動せしめ、又佛露伊の諸國をして輸出を分擔せしむるに就て、斷乎たる處置を講ぜざるが如きは、最惡の政策とせざるを得ず。英國が既に他諸國の財政上に於ける負擔に當りつゝある以上は、他諸國が英國を援助す

るは、公正にして又必要なりとす可く、爲替相場の維持は兵員糧食の充實と共に聯合諸國の死活問題たるものなり。若しも爲替相場の壊敗を招かんか、英國並に他の諸國は其必要とする物資を購入するに苦むの道理にして、此點より見れば爲替相場の問題を他の諸國に提示し、諸國をして英國の必要とする金貨を供給せしむることを要求するは、英國政府の義務なりと云はざるを得ず。斯る包括的政策にして、成立せんか、聯合諸國は合衆國が吸收せんと希望より多くの金貨を輸送するに堪ゆるを得べし。合衆國は今日現に一億八千萬磅の金貨を有し、此以上輸入の増加を來して、不健全なる通貨の膨脹並に投機熱を招致するを恐るゝの狀あり。是れ米國が必ずしも金貨を要求せずと稱せらるゝ所以なり。(The

Round Table, September, 1915, England's Financial Task)

本年二月英佛露三國の財政當局者巴里に會合して、聯合諸國の財力並に兵器の協同を議するや、三國間の金貨準備分配に就て或る聯絡を設くるの議亦會合の一案件たる可しとの風評世間に傳へられたり。爾來此種の風評は未だ實現せられずと雖も、「ラウンド、テーブル」に於ける論者の意見は論理上些の間然するものなく、或

は戦局の發展、其各國經濟社會殊に國際金融關係に及ぼす影響の如何に依て實際問題として攻究せらるゝ日の迫れりと認むるの觀ありとす可きか。

四

英國が國際貸借に於て不利の地位に陥れると同時に、最も有利なる地位に立てるものは即ち米國なり。米國が國際貸借上債務國たるの地位に居り、歐洲殊に英國に對して多額の債務を負ふの事實は人の知る所にして、而して其債務たる、單に放下資本に對する利子收益の支拂のみに止まらず、外國海運業者に支拂ふ運賃、外國保險業者並に金融業者に支拂ふ保險料手数料、外國に漫遊する米國人の費消金、米國に於ける歐洲移住民送還金等種々の形態に亘ることも亦明白の事實なり。是等の諸項目に依て、米國の歐洲諸國に負ふ債務は幾何に達するや。此點に就ては、再びサー・デョージ・ペイシユが米國貨幣調査委員會の囑に應じ、同會に提出したる報告書 (National Monetary Commission. Senate Document. No. 579. The Trade Balance of the United States) に據て、其概要を示さんに、ペイシユ氏は歐洲諸國が米國に放下しつゝある資本の總額を六十億弗と計算し、之に對して米國が對手國に支拂ふ利子收益を二

億五千萬弗とし、一方に米國旅行者の外國に於ける消費金が外國旅行者の米國に於ける消費金に超過する高を一億七千萬弗、米國在住外國人の本國に對する送還金を一億五千萬弗、米國の外國に支拂ふ運賃が外國の米國に支拂ふ運賃に超過する高を二千五百萬弗とし、是等を合計して、米國の債務を五億九千五百萬弗としたり。米國が既に國際貸借上斯る債務を負ふ以上は一方に商品並に金銀の輸出超過に依て、債務を決済し、依て以て貸借の均衡を求めざる可からざるは、自然の勢にして、試に最近數年間に於ける商品並に金銀の輸出入を掲ぐるに左の如し (單位百萬弗)

	輸 入	輸 出	輸出超過	金銀出超	以上二口合計
自一九〇九年七月 至一九一〇年六月	一、五五六、九	一、七一〇、〇	一五三、一	八七、三	二四〇、四
自一九一〇年七月 至一九一一年六月	一、五二七、二	二、〇一三、五	四八六、三	三三、二	五一八、五
自一九一一年七月 至一九一二年六月	一、六五三、二	二、一七〇、三	五一七、一	二六、二	五四三、三
自一九一二年七月 至一九一三年六月	一、五一三、〇	二、四二八、五	九一五、五	三八、九	九五四、四
自一九一三年七月 至一九一四年六月	一、八九三、九	二、三二九、六	四三五、七	七〇、一	五〇五、八

米國が年々外國に對して債務を償還する高、外國より新に放下せらるゝ資金の高並に外國に向つて放下する資本の高等に就ては、調査の據る可きものなしと雖も、商品並に金銀の出超過と債務として年々外國に支拂ふ可き高とを比較して、前者が後者より大なるときは、債務を償還したるものと見る可く、反對に後者が前者より大なるときは、斯に資本の放下せられたるものと認む可く、斯くて全體の國際貸借に均衡を求めたるが如し。

斯の如くして多年國際貸借に均衡を得、商品の輸出超過と金銀の輸出超過とに依て、徐々歐洲に負ひたる債務を減却するの地位に立ちたる米國は、今回の戦争に依て如何なる影響を蒙れるや、昨年戦争の開始以來米國の貿易が非常の變動を蒙りたる間に於て、著しく其輸出超過を増進するに至れるは、明白の事實にして、昨年七月より本年六月に至る一年間の貿易統計を見るに、其實數左の如し。單位百萬弗

輸 入	輸 出	輸出超過	金銀入超	以上二口差引
一、六七四、二	二、七六八、六	一、〇九四、四	二五、三	一、〇六九、一

之を前年度と比較するに、輸入に於て二億一千九百七十萬弗を減じ、輸出に於て

四億三千九百萬弗を増し、結局輸出超過額に於て六億五千八百七十萬弗を増加したる次第にして、固より米國は此權利の一部分を金銀の形態に於て收受したることと金銀入超過の貿易表に存する一事を以て知るを得べしと雖も、尙ほ其差額十億六千九百十萬弗に上れり。米國が假に例年の如く外國に決済す可き債務約六億弗を負ふとするも、對外債權の増加斯の如く大なる以上は、優に債務を決済し、残れる所を以て、既存の債務を償還するの地位に立てるや論を俟たず。而して毎年外國に負う債務の内、(一)海運業の運賃は歐洲交戰諸國の貿易上に供用せらる可き船舶の減少したる間に於て、米國の海運業者が斯界に活躍したる事情より考ふるときは、當然減少したるものとす可く、(二)米國旅行者の海外費消金は歐洲諸國が擧げて交戰の巷と爲り、旅行遊覽に適せざるの結果、其減少を想像す可く、(三)米國在住外國人の送還金は彼等が軍籍に在るの關係上、母國に召喚せられたる爲めに、決して例年の如く大ならざるを得べく、是等諸種の事情を綜合して考ふるときは、今や米國は外國に負う債務を減却せられ、輸出超過に依て、其債權を増加し、其差額の一部は金銀を以て受入るゝとするも、結局既存の債務を償還して、以て國際貸借の均衡を求

むるを得るの地位に就きたるものと云はざる可からず。

斯の如く變動したる米國の國際貸借は今後如何なる状態と爲る可きや。貿易關係以外に於ける貸借の項目に就ては其異動を推窮する資料を有せざるを以て、姑く之を不問に付し、獨り貿易上の關係のみに就て考ふるに、昨年度即ち昨年七月より本年六月に至る一年間に於て米國が前記の如き巨額の輸出超過を呈したるは主として歐洲交戰國に對する食料品並に軍需品の輸出増加に基けるものにして、而して此種の輸出増加は歐洲戰爭の久しきに亘るに隨ひ、其勢の持續せらる可きことを信ずるの理由あるを以てなり。此點に就て根據を得る爲めに、昨年度に於ける米國貿易統計に據り、如何なる種類の貨物輸出が如何なる國に向つて特に増加したるやを調査するに大要左の如きものあり。

輸出高二千萬弗以上を増加したる貨物(單位百萬弗)

	一九一四年七月以降 一九一五年六月まで	一九一三年七月以降 一九一四年六月まで	増加額
小麥并に小麥粉	四八二、四	一四二、四	三四〇、〇
肉并に牛脂類	二二〇、一	一四六、二	七三、九
革并に革製品	一一〇、七	五七、六	六三、一

	七二、〇	五一、五	二〇、五
綿製品	六八、一	三三、二	三四、九
自動車并に部分品	六四、〇	三、四	六〇、〇
馬	四六、四	二七、一	一九、三
化學製品并に藥品	四一、五	六、三	三五、二
爆發物	四一、三	八、三	三三、〇
穀物并に穀粉製品	二七、三	四、八	二二、五
毛織物製品	二五、六	一、九	二三、七
砂糖	二一、二	四	二〇、八
亞鉛製品			

米國輸出貿易増減國別(單位百萬弗)

	一九一四年七月以降 一九一五年六月まで	一九一三年七月以降 一九一四年六月まで	増減額
佛蘭西	三〇九、三	一五九、八	(+) 二〇九、五
意大利	九一、七	五九四、二	(+) 三二七、五
比利時	一八四、八	七四、二	(+) 一一〇、五
和蘭	一四三、二	一一二、二	(+) 三一、〇
瑞典	七八、二	一四、六	(+) 六三、六
諸國	三九、〇	九、〇	(+) 三〇、〇
獨逸	二八、八	三四四、七	(-) 三一五、九
白耳	二〇、六	六一、二	(-) 四〇、五
奧匈	一、二	二二、七	(-) 二一、四

前表に據るに米國の輸出増加は軍需品食料品の輸出に繋がる所多く又獨逸兩國の輸出杜絶に依て生じたる缺陷を米國の貨物に依て補充したるもの少なからず。而して其輸出せられたる市場を見るに、英國に對する増加額最も著しく、佛伊の兩國之に亞ぐが如き、輸出増進の戦争に依るもの少なからざるを示すものとす可し。獨逸白耳義並に奧地利匈牙利に對する輸出の減少は事實已むを得ざる所なりとするも、一方に瑞典和蘭諾威の如き歐洲の小國にして、然も獨逸に隣接する國に對する輸出が一年間に於て一億二千數百萬弗の増加を致したるは是等諸國を経由して、間接に獨逸に供給せられたるものと認めざる可からず。米國輸出貿易の内容容並に輸出國の種別斯の如く、英國海軍が依然海上に優勢を持して將來米國の英佛兩國に對する交通の安全なること既往と異なるものなき以上は、歐洲戦争の繼續する限り、將た又歐洲に於て米國より輸入する商品に對する支拂の不可能なる状態に陥らざる限り、米國の輸出貿易が本年度に於て更に前年度に倍蓰するの勢を以て増進し、輸出増加に依て對外債務の一部を減却し、歐洲戦後に於て國際貸借の狀態に變調を生ずるに至る可きは、之を想像するを得べきなり。

英國聯合內閣成立の由來并びに其立法事業

占部百太郎

去る五月下旬に組織せられた英國の聯合內閣に就ては、余は本誌七月號に於て不取敢英國政黨政治の變局と題して、論述したのであるが、當時は不充分なる電報を重なる材料として論評したのであるから、此英國憲法政治の大事事件の真相を捕捉する上に於て尠なからざる遺憾があつた。其後我輩の接手したる材料に徴して、這回の聯合內閣成立の由來が多少判明して來たのであるが、其れと同時に、此振古未曾有の大國難に對する英國人の決心の如何に強固なるかが窺はれ、隨て之が今後英國憲法政治の局面に及ぼす可き影響の如何に大なるものある可きや、觀察に餘りあるのである。余は左に更めてアスキース聯合內閣組織の原因に就て説述し、